

HAWAII NEWSLETTER

前日の津波警報は明け方に解除され、津波注意報も9:40 am.に解除となりました。授業は11:00 am.からの開始されました。

道具としての言語

授業では Transactional Language を学びました。これは、実際の具体的な状況を想定し、その中で目的（たとえば、注文する、依頼する、道を尋ねるなど）を達成するために行う言葉のやり取りのことです。心理学の知見で TAP 理論というものがあります。これは Transfer-Appropriate Processing Theory と呼ばれ、1970 年代後半に提唱された認知心理学の理論です。この理論は、「記憶の成績は学習時の処理とテスト時の処理がどれだけ一致しているかによって決まる」という考え方に基づいています。

第二言語学習の文脈に応用すると、実際に言語を使う場面や状況を想定して学んだ方が、ただ単語や文法などの知識として学ぶよりも、実際にその場面に直面したときに言葉を思い出しやすくなるということになります。



今は日本の教科書もよく改善されてきていますが、伝統的な文法項目に沿って書かれた教科書が非難される理由の一つがここにあります。状況設定が弱く、生徒がその英語を使う場面をイメージしにくいとの立場です。もちろん、文法学習自体を否定するものではありません。



TEDDY'S BIGGER BURGERで注文!

コロナ後、セルフレジやタッチパネル注文が増え、人と会話をしなくてもショッピングが可能な世界が広がっています。言語（Speaking）を実際の場面で学ぶには以前より難易度が高くなっています。一方でReadingの力はより必要になっていると思います。

そんな中、たかがお店での注文と思われるかもしれませんが、実際に外国語でやり取りをして目的（商品の購入）を成し遂げるという経験は、度胸も含めて必ず将来に役立つでしょう。



と、書いているそばから、タッチパネルで注文する人々が↑です。

いずれにしる、全員少し遅めのランチにありつけました。



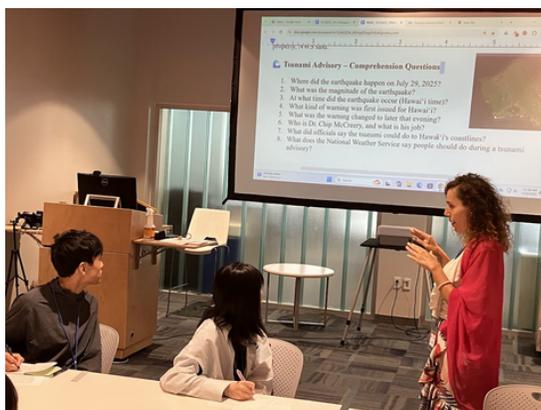
Teddy's Bigger Burgerの帰りは、Pali Lookoutに立ち寄りしました。初日にアクティビティに参加してくれたジョシュさんによると、ここは「ハワイの関ヶ原の戦い」があった場所だとのこと。

1795年、ハワイ統一を目指すカメハメハ大王はオアフ島の王カラニクプレをヌウアヌ・パリの戦いで打ち破り、敵兵の多くを谷へ追い詰め崖から突き落としました。この激戦により数百人が命を落とし、カメハメハの支配はオアフ島へと拡大しました。その後、1890年代後半の道路工事の際、崖下から約800体もの人骨や頭蓋骨が発見され、これがその戦いで命を落とした戦士たちの遺骸であると考えられています。

ハワイ諸島統一の決定的転換点であったこの戦いは、まさに戦国時代が終わり江戸幕府の幕開けへとつながる日本の関ヶ原の戦いであったようです。



時間を遡って、1限はハワイのLocal Newsを扱うReadingの授業でした。



問に答えながら小グループで記事を読んでいく活動や、昨日の津波のニュース記事を教材にした授業、様々なニュース媒体を紹介する授業がありました。

2限でのロールプレイの様子



本日は、1限のReadingを終え、2限に「注文の仕方」の準備をし、Teddy's Bigger Burgerへ、という流れでした。

Busが準備されるのを待っている間、全員に2ドル札が渡されました。記念に持って帰っていいよ、ということだそうです。

アメリカの2ドル札は、他の紙幣に比べて流通量が少なく、一般的にあまり見かけないことから「珍しい紙幣」とされているそうです。実際に使えますが、多くの人が「珍しい」「使いにくい」と感じて財布にしまったままにするため、結果的に市場での流通が限定されているようで、日本の2000円札みたいなものです。こうした希少性から、観光地ではお土産として扱われたり、幸運の象徴とされることもあるそうです。

表面にはアメリカ第3代大統領であり、「独立宣言」の起草者の一人であるトーマス・ジェファーソンの肖像が中央に描かれています。また、紙幣に記載されているシリアルナンバーの前にあるアルファベットと左側の○の中のアルファベットは、その紙幣を発行した連邦準備銀行を示しており、「A」はボストン、「B」はニューヨーク、「L」はサンフランシスコといった具合に、アメリカ全土にある12の連邦準備銀行に対応しています。

裏面には独立宣言の署名シーンが描かれています。



HPUのBus

授業も残り2日と、早いものです。しかし、ホストファミリーと一緒に過ごす時間は平日の夜や土日と、まだまだ多くの時間を英語と接触するために使うことができます。積極的に自分でその機会を作ってもらいたいと思います。